

1. 課題名

非弁膜症性心房細動患者における抗凝固薬のアドヒアランス調査

2. 背景と意義

非弁膜症性心房細動（NVEF）に対する抗凝固薬は脳梗塞予防のために継続した服用が不可欠となる。特に DOAC はワルファリンに比べて食物-薬物相互作用が少なく，厳密なモニタリングを必要としないため利点が多い。しかしながら，DOAC においても服用率の低下が問題となっている。

3. 目的

NVEF の治療におけるワルファリン，リバーロキサバン，アピキサバン，そしてエドキサバンのアドヒアランスを測定し，比較検討する。

4. 方法

JCHO 金沢病院において 2018 年 4 月 1 日-2019 年 3 月 31 日までに上記薬剤が処方された患者に対してカルテ調査を行い，データを収集する。

5. 目標症例数と研究実施期間

1) 目標症例数：

100 例（各薬剤群 25 例）。本研究では正確なサンプルサイズの設定は行わず，JCHO 金沢病院での本研究実施期間において上記薬剤が使用されたすべての患者を対象とする。

2) 研究実施期間：

2019 年 4 月 1 日-2020 年 3 月 31 日

6. 研究参加施設における調査手順

1) 研究対象者：

2018 年 4 月 1 日から 1 年間に JCHO 金沢病院でワルファリン，リバーロキサバン，アピキサバン，そしてエドキサバンが処方された NVEF を有する患者

2) 調査項目：

Proportion of Days Covered（PDC：対象薬の処方日数を調査対象期間の日数で除した割合），CHADS2 スコア，患者背景（年齢，性別，合併症，併用薬），中断理由

7. 記録の保存について

1) 保存する資料

得られた要配慮個人情報、匿名加工情報へ変換して Microsoft Excel ファイルへ保存する

2) 保存方法

資料については、専用の USB フラッシュメモリに保存し、施錠できる机等に厳重に保管する。

3) 個人情報管理責任者

対応表：本田 恭子（JCHO 金沢病院薬剤科，薬剤師）

8. 研究成果の帰属と結果の公表

研究成果から得られた結果の帰属は北陸大学薬学部とする。結果は日本医療薬学会や JCHO 学会を含め、その他学会および研究会等での発表および専門誌への投稿論文として公表する。

9. 研究組織

- ・研究責任者：岡田 守弘（北陸大学薬学部，准教授）
- ・研究分担者：名倉 希美（北陸大学薬学部，薬学部 5 年次生）
大橋 彩乃（北陸大学薬学部，薬学部 5 年次生）
西上 潤（JCHO 金沢病院薬剤科，薬剤科長）
岡田 昌江（JCHO 金沢病院薬剤科，薬剤師）
本田 恭子（JCHO 金沢病院薬剤科，薬剤師）

・事務担当者：

住所：〒920-1181 石川県金沢市金川町ホ 3 番地

電話番号：076-229-1165（内線 2287）

E-mail：m-okada@hokuriku-u.ac.jp

担当者：岡田 守弘